

当院における採血室の取り組み

◎岡 美貴子¹⁾、光永 倫子¹⁾、新美 昌子¹⁾、加治原 みどり¹⁾、上島 さやか¹⁾
社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院¹⁾

【背景】

当院では午前中に 200～300 名の採血を行っており、臨床検査技師 7 名と看護師 2 名で対応している。そのうち 4 名は専任の臨床検査技師であったが、2025 年 3 月で専任 2 名が退職予定となり、他のスタッフの採血スキル向上が必要となった。採血室では急変対応も求められる。今回、当院における採血室の取り組みについて報告する。

【取り組み】

1. アンケートを実施し、スタッフ自身の課題を意識づけて、自発的な採血スキル向上につながるようにした。
2. 採血手技や急変対応に関する内容で、Microsoft Forms を用いて毎月採血室確認テストを実施した。

【結果】

1. 採血に関するアンケート調査を 2024 年 9 月（第 1 回）と 2025 年 3 月（第 2 回）に実施した。第 1 回では「手背からの採血が実施できる」との問いに、「非常にそう思う」8 名、「そう思う」9 名、「どちらでもない」3 名、「そう思わない」4 名、「全くそう思わない」2 名であった。第 2

回では、「非常にそう思う」6 名、「そう思う」11 名、「どちらでもない」2 名、「そう思わない」4 名、「全くそう思わない」2 名であった。また、失敗後に交代した人数は 2024 年 4 月が 29 名、5 月が 18 名、12 月が 17 名、2025 年 1 月が 5 名であった。さらに、交代を依頼された臨床検査技師や看護師が、採血レベルをⅢ（通常）、Ⅳ（困難）、Ⅴ（超難関）の 3 段階で評価した。以前はレベルⅢでの交代も多くみられたが、取り組み実施後は減少した。

2. 2024 年度の採血室確認テストは、急変対応について 6 回、採血手技について 4 回、転倒予防について 2 回実施した。2024 年度に採血室での患者急変は 1 件であった。

【結語】

自己評価を認識することで、スタッフの技術が向上していると示された。患者急変も迅速に対応でき、確認テストの成果と考える。今後もスタッフのスキル向上を図り、患者の安全を確保するため確認テストやアンケート調査を継続していく。

連絡先 096-351-8000
(2040)